

2023年度 授業要項

区分			専門分野	履修学年/学部/コース	第2学年/経理系/1コース
科目名			臨床柔整学Ⅲ	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	第2柔整普通教室
教員名			藤田 実	講義形式	講義
学習目標と講義概要			柔道整復理論の上肢骨折について発生機序や好発年齢、症状等全般を学習し、理解することを目標とする。学んだことが臨床現場において大変重要な意味を持つことも併せて学ばせる。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	鎖骨骨折①		
2	1	2	鎖骨骨折②		
3	1	2	肩甲骨骨折		
4	1	2	上腕骨近位端部骨折		
5	1	2	上腕骨骨幹部骨折		
6	1	2	上腕骨遠位端部骨折①		
7	1	2	上腕骨遠位端部骨折②		
8	1	2	前腕骨近位端部骨折		
9	1	2	前腕骨骨幹部骨折①		
10	1	2	前腕骨骨幹部骨折②		
11	1	2	前腕骨遠位端部骨折		
12	1	2	手部骨折		
13	1	2	手指部骨折		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1) パワーポイント、参考資料などを使用 2) 板書やグループワーク等も行う					
評価方法					
1) 単位認定試験 2) 出席(2/3以上) 3) 課題提出、授業態度などで評価する。 「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
南江堂 柔道整復学・理論編 改訂第7版を使用する。					
教員について【実務経験有】					
担当教員は柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を持ち、接骨院や整形外科での臨床現場実務経験や他の専門学校での教育経験を活かして授業を行う。					

2023年度 授業要項

区分			専門分野	履修学年/学部/コース	第2学年/後期部/1コース
科目名			臨床柔整学IV	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	第2柔整普通教室
教員名			鈴木 勇也	講義形式	講義
学習目標と講義概要			柔道整復師として柔道整復学各論の上肢脱臼について理解することを目的とする。 鎖骨、肩関節、肘関節、手関節及び手指部の各脱臼における発生機序、整復法、固定法、後療法から指導管理に至るまでのプロセス、後遺症の可能性等を理解し、臨床の現場で患者に対してインフォームド・コンセントができるようにする。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	鎖骨周囲の解剖		
2	1	2	鎖骨の脱臼 1		
3	1	2	鎖骨の脱臼 2		
4	1	2	肩部周囲の解剖		
5	1	2	肩関節脱臼 1		
6	1	2	肩関節脱臼 2		
7	1	2	肩関節脱臼 3		
8	1	2	肘部周囲の解剖		
9	1	2	肘関節脱臼 1		
10	1	2	肘関節脱臼 2		
11	1	2	肘関節脱臼 3		
12	1	2	手部手指部の解剖		
13	1	2	手関節、手指関節の脱臼		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答・解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説					
評価方法					
1)単位認定試験 2)出席状況					
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学・理論編:南江堂 柔道整復学・実技編:南江堂					
教員について【実務経験有】					
担当教員は柔道整復の教員資格を持ち、整形外科・接骨院にて5年以上臨床経験を積んでおり、現在も附属接骨院で臨床経験を積んでいる。その経験に基づいて柔道整復学・各論を資格取得後に応用できるような授業を展開する。					

2023年度 授業要項

区分			専門分野	履修学年/学部/コース	第2学年/健康部/1コース
科目名			臨床柔整学V	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	第2柔整普通教室
教員名			森 俊明	講義形式	講義
学習目標と講義概要			柔道整復師として整復学各論の上肢軟部組織損傷について理解することを目的とする。肩部、肘部および前腕部、手関節および手指部の各障害における発生機序、治療法、固定法、後療法から指導管理に至るまでのプロセス、後遺症(神経障害等)の可能性をきちんと理解し、臨床の現場で患者に対しインフォームドコンセントができるようにする。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	肩部の軟部組織損傷1		
2	1	2	肩部の軟部組織損傷2		
3	1	2	肩部の軟部組織損傷3		
4	1	2	肩部の軟部組織損傷4		
5	1	2	肘部の軟部組織損傷1		
6	1	2	肘部の軟部組織損傷2		
7	1	2	肘部の軟部組織損傷3		
8	1	2	前腕部の軟部組織損傷		
9	1	2	手関節部の軟部組織損傷1		
10	1	2	手関節部の軟部組織損傷2		
11	1	2	手指部の軟部組織損傷1		
12	1	2	手指部の軟部組織損傷2		
13	1	2	手指部の軟部組織損傷3		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説					
評価方法					
1) 単位認定試験 2) 出席状況(3分の2以上の出席) 3) 授業態度、提出物等を加味する。 「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学理論編:南江堂					
教員について【実務経験有】					
接骨院にて約6年の経験がある。					

2023年度 授業要項

区分			専門分野	履修学年/学部/コース	第2学年/健康部/1コース
科目名			臨床柔整学VI	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	第2柔整普通教室
教員名			羽田 哲也	講義形式	講義
学習目標と講義概要			柔道整復師として整復学各論の下肢骨折について理解することを目的とする。骨盤骨、大腿骨、膝蓋骨、下腿骨、足部・足趾骨の各骨折における発生機序、整復法、固定法、後療法から指導管理に至るまでのプロセス、後遺症の可能性等をきちんと理解し、臨床の現場で患者に対しインフォームドコンセントができるようにする。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	骨盤の骨折		
2	1	2	大腿骨近位部の骨折		
3	1	2	大腿骨骨幹部の骨折		
4	1	2	大腿骨遠位部の骨折		
5	1	2	膝蓋骨骨折		
6	1	2	下腿骨近位部骨折		
7	1	2	下腿骨骨幹部骨折		
8	1	2	中間テスト		
9	1	2	下腿骨遠位部骨折		
10	1	2	足根骨骨折1		
11	1	2	足根骨骨折2		
12	1	2	中足骨骨折、趾骨骨折		
13	1	2	総復習		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答、解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1)板書及び説明 2)プリント配布					
評価方法					
1)単位認定試験 2)出席状況(2/3以上の出席) 3)確認試験、授業態度、提出物等を加味する。 「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学・理論編:南江堂					
教員について【実務経験有】					
柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整骨院臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かし、授業を進める。					

2023年度 授業要項

区分	専門分野		履修学年/学部/コース	第2学年/経理部/1コース
科目名	臨床柔整学Ⅶ		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師 専科教員		使用教室	第2柔整普通教室
教員名	小林 耕平		講義形式	講義
学習目標と講義概要	柔道整復師として柔道整復学各論の下肢脱臼について理解することを目的とする。 股関節、膝関節、足関節及び足指部の各脱臼における発生機序、整復法、固定法、後療法から指導管理に至るまでのプロセス、後遺症の可能性等を理解し、臨床の現場で患者に対してインフォームド・コンセントができるようにする。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	骨盤周囲、股関節の解剖	
2	1	2	股関節の脱臼 1	
3	1	2	股関節の脱臼 2	
4	1	2	大腿部膝関節の解剖	
5	1	2	膝蓋大腿関節脱臼 1	
6	1	2	膝蓋大腿関節脱臼 2	
7	1	2	膝関節脱臼 1	
8	1	2	膝関節脱臼 2	
9	1	2	足部の解剖	
10	1	2	足関節脱臼 1	
11	1	2	足関節脱臼 2	
12	1	2	足趾部の解剖	
13	1	2	足趾の脱臼	
14	1	2	単位認定試験	
15	1	2	解答・解説	
合計				
15	15	30		
学習方法				
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説				
評価方法				
1)単位認定試験 2)出席状況				
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
柔道整復学・理論編:南江堂 柔道整復学・実技編:南江堂				
教員について【実務経験有】				
(小林先生)担当教員は鍼灸、柔整の資格、柔整の教員資格を有し、本校の卒業生である。本校卒業後、5年以上整骨院にて勤務し、開業も経験しており、経験豊富な教員である。				

2023年度 授業要項

区分		専門分野	履修学年/学部/コース	第2学年/健康部/1コース
科目名		臨床柔整学Ⅷ	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格		柔道整復師 専科教員	使用教室	第2柔整普通教室
教員名		天和 航平	講義形式	講義
学習目標と講義概要		柔道整復師として柔整理論各論の軟部組織損傷について理解することを目的とする。股関節、大腿部、膝関節部、下腿部、足部の各障害における発生機序、治療法、固定法、後療法から指導管理に至るまでのプロセス、後遺症(神経障害等)の可能性をきちんと理解し、臨床の現場で患者に対しインフォームドコンセントができるようにする。		
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	股関節部の軟部組織損傷①	
2	1	2	股関節部の軟部組織損傷②	
3	1	2	大腿部の軟部組織損傷①	
4	1	2	大腿部の軟部組織損傷②	
5	1	2	膝関節部の軟部組織損傷①	
6	1	2	膝関節部の軟部組織損傷②	
7	1	2	膝関節部の軟部組織損傷③	
8	1	2	膝関節部の軟部組織損傷④	
9	1	2	下腿部の軟部組織損傷①	
10	1	2	下腿部の軟部組織損傷②	
11	1	2	足関節部の軟部組織損傷	
12	1	2	足・足趾部の軟部組織損傷	
13	1	2	復習	
14	1	2	単位認定試験	
15	1	2	解答・解説	
合計				
15	15	30		
学習方法				
1) 板書及び説明 2) プリント配布				
評価方法				
1) 単位認定試験 2) 出席状況(2/3以上の出席) 「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
柔道整復学・理論編:南江堂				
教員について【実務経験有】				
(天和先生)柔道参段、整形外科での実務経験が約7年。現場で診させていただいて得た知識・技術を基にして、基礎はもちろんのこと、臨床経験も交えながら、授業を展開します。				

2023年度 授業要項

区分			専門分野	履修学年/学部/コース	第2学年/昼間部/1コース
科目名			臨床柔道整復総合学 I	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	第2柔整普通教室
教員名			木野田 浩平	講義形式	講義
学習目標と講義概要			柔道整復師として必要な解剖学の知識を身に着けることを目的とする。 人体の構造と機能の知識を身に着けることで、現場に出た際に患者に対して適切な指導管理を行うことができるようにする。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	脈管系の解剖①		
2	1	2	脈管系の解剖②		
3	1	2	内臓系の解剖①		
4	1	2	内臓系の解剖②		
5	1	2	内分泌系の解剖①		
6	1	2	内分泌系の解剖②		
7	1	2	神経系の解剖①		
8	1	2	神経系の解剖②		
9	1	2	神経系の解剖③		
10	1	2	感覚器の解剖①		
11	1	2	感覚器の解剖②		
12	1	2	感覚器の解剖③		
13	1	2	総復習		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答・解説		
合計					
15	15	30			
学習方法 1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説					
評価方法 1)単位認定試験 2)出席状況(3分の2以上の出席) 3)授業内で行う小テスト 4)授業態度、提出物等を加味する。 「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書 解剖学:医歯薬出版					
教員について【実務経験有】 (木野田先生)柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を有し、整骨院での現場実務経験、他の学校での教員経験を活かし授業を行う。					

2023年度 授業要項

区分			専門分野	履修学年/学部/コース	第2学年/保健部/1コース
科目名			臨床柔道整復総合学Ⅱ	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	第2柔整普通教室
教員名			森 俊明	講義形式	講義
学習目標と講義概要			柔道整復師として必要な生理学の知識を身につけることを目的とする。 人体の生理機能の知識を理解させることにより、臨床現場にて診察を進める中で患者の症状に対して多角的に判断ができるようにする。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	筋の生理1		
2	1	2	筋の生理2		
3	1	2	神経の生理1		
4	1	2	神経の生理2		
5	1	2	神経の生理3		
6	1	2	運動の生理		
7	1	2	感覚の生理1		
8	1	2	感覚の生理2		
9	1	2	内分泌1		
10	1	2	内分泌2		
11	1	2	内分泌3		
12	1	2	血液1		
13	1	2	血液2		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答・解説		
合計					
15	15	30			
学習方法 1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説					
評価方法 1) 単位認定試験 2) 出席状況(3分の2以上の出席) 3) 授業態度、提出物等を加味する。 「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書 生理学: 南江堂					
教員について【実務経験有】 接骨院にて約6年の経験がある。					

2023年度 授業要項

区分		専門分野		履修学年/学部/コース	第2学年/経理部/1コース
科目名		基礎柔整実技 I		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格		柔道整復師 専科教員		使用教室	第1実習室
教員名		伊藤 拓、鈴木 勇也、古川 清裕		講義形式	実技
学習目標と講義概要		上肢の骨折、脱臼の整復法、固定法、注意点などを学び臨床でも通じる技術や知識を習得することを目標とする。			
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	鎖骨骨折 整復		
2	1	2	鎖骨骨折 固定		
3	1	2	肩鎖関節脱臼 整復		
4	1	2	肩鎖関節脱臼 固定		
5	1	2	上腕骨外科頸骨折 整復		
6	1	2	上腕骨外科頸骨折 固定		
7	1	2	肩関節前方脱臼 整復		
8	1	2	肩関節前方脱臼 固定		
9	1	2	上腕骨骨幹部骨折 整復		
10	1	2	上腕骨骨幹部骨折 固定		
11	1	2	肘関節後方脱臼 整復		
12	1	2	肘関節後方脱臼 固定		
13	1	2	総復習		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1)実技の教科書、プリントを使用 2)グループでの整復、固定材料の作成、固定や検査等を学ぶ					
評価方法					
1)単位認定試験 2)出席(2/3以上) 3)授業態度等を考慮する。					
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
南江堂:柔道整復学・実技編 改訂第2版					
教員について【実務経験有】					
(古川先生)接骨院の運営、経営に携わったことのある経験豊富な教員である。					
(鈴木先生)担当教員は柔道整復の教員資格を持ち、整形外科・接骨院にて5年以上臨床経験を積んでおり、現在も附属接骨院で臨床経験を積んでいる。その経験に基づいて柔道整復学・各論を資格取得後に応用できるような授業を展開する。					
(伊藤先生)柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整形外科や接骨院など臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かした授業を実施する。					

2023年度 授業要項

区分		専門分野	履修学年/学部/コース	第2学年/健康師/1コース
科目名		基礎柔整実技Ⅱ	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格		柔道整復師 専科教員	使用教室	第1実習室
教員名		藤田 実、鈴木 勇也、古川 清裕	講義形式	実技
学習目標と講義概要		上肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷の整復法、固定法、検査法や注意点などを学び臨床でも通じる技術や知識を習得することを目標とする。		
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	コーレス骨折 整復・固定①	
2	1	2	コーレス骨折 整復・固定②	
3	1	2	コーレス骨折 整復・固定③	
4	1	2	第5中手骨頸部骨折 整復	
5	1	2	第5中手骨頸部骨折 固定	
6	1	2	第2指PIP関節背側脱臼 整復	
7	1	2	第2指PIP関節背側脱臼 固定	
8	1	2	腱板断裂 検査	
9	1	2	上腕二頭筋長頭腱損傷 検査	
10	1	2	肘関節内側副靭帯損傷 固定	
11	1	2	第1指側副靭帯損傷 固定	
12	1	2	マレットフィンガー 整復・固定	
13	1	2	総復習	
14	1	2	単位認定試験	
15	1	2	解答解説	
合計				
15	15	30		
学習方法				
1) 実技の教科書、プリントを使用 2) グループでの整復、固定材料の作成、固定や検査等を学ぶ。				
評価方法				
1) 単位認定試験 2) 出席(2/3以上) 3) 授業態度等を考慮する。				
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
南江堂:柔道整復学・実技編 改訂第2版				
教員について【実務経験有】				
(古川先生)接骨院の運営、経営に携わったことのある経験豊富な教員である。				
(鈴木先生)担当教員は柔道整復の教員資格を持ち、整形外科・接骨院にて5年以上臨床経験を積んでおり、現在も附属接骨院で臨床経験を積んでいる。その経験に基づいて柔道整復学・各論を資格取得後に応用できるような授業を展開する。				
(藤田先生)担当教員は柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を持ち、接骨院や整形外科での臨床現場実務経験や他の専門学校での教育経験を活かして授業を行う。				

2023年度 授業要項

区分		専門分野	履修学年/学部/コース	第2学年/復旧部/1コース
科目名		基礎柔整実技Ⅲ	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格		柔道整復師 専科教員	使用教室	第1実習室
教員名		小林 耕平、木野田 浩平	講義形式	実技
学習目標と講義概要		上肢軟損の診察、検査(腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷、下肢の骨折の診察、固定(下腿骨骨折骨幹部骨折)、体幹骨折の診察、固定(肋骨骨折)、下肢軟損の診察、検査(ハムストリングス、大腿四頭筋)について適切に行えるようにする。		
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷の診察、検査1	
2	1	2	下腿骨幹部骨折1	
3	1	2	肋骨骨折1	
4	1	2	ハムストリングス損傷、大腿四頭筋損傷1	
5	1	2	腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷の診察、検査2	
6	1	2	下腿骨幹部骨折2	
7	1	2	肋骨骨折2	
8	1	2	ハムストリングス損傷、大腿四頭筋損傷2	
9	1	2	腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷の診察、検査3	
10	1	2	下腿骨幹部骨折3	
11	1	2	肋骨骨折3	
12	1	2	ハムストリングス損傷、大腿四頭筋損傷3	
13	1	2	総復習	
14	1	2	単位認定試験1	
15	1	2	単位認定試験2	
合計				
15	15	30		
学習方法 実技の教科書、プリントを使用し、グループで検査、固定材料の作成、固定等を学ぶ。				
評価方法 単位認定試験、授業態度等を成績に加味する、出席(2/3以上)。 「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書 南江堂:柔道整復学・実技編 改訂第2版				
教員について【実務経験有】 (木野田先生)柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を有し、整骨院での現場実務経験、他の学校での教員経験を活かし授業を行う。 (小林先生)担当教員は鍼灸、柔整の資格、柔整の教員資格を有し、本校の卒業生である。本校卒業後、5年以上整骨院にて勤務し、開業も経験しており、経験豊富な教員である。				

2023年度 授業要項

区分		専門分野	履修学年/学部/コース	第2学年-健康部/1コース
科目名		基礎柔整実技IV	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格		柔道整復師 専科教員	使用教室	第1実習室
教員名		小林 耕平、羽田 哲也	講義形式	実技
学習目標と講義概要		下肢軟損の診察、検査(膝関節側副靭帯損傷、膝関節十字靭帯損傷、膝関節半月板損傷、下腿三頭筋損傷、足関節外側靭帯)が適切に行えるようにする。		
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	膝側副靭帯損傷1	
2	1	2	前十字靭帯損傷1	
3	1	2	半月板損傷1	
4	1	2	下腿三頭筋損傷1	
5	1	2	足関節外側靭帯損傷1	
6	1	2	まとめ	
7	1	2	膝側副靭帯損傷2	
8	1	2	前十字靭帯損傷2	
9	1	2	半月板損傷2	
10	1	2	下腿三頭筋損傷2	
11	1	2	足関節外側靭帯損傷2	
12	1	2	総まとめ1	
13	1	2	総まとめ2	
14	1	2	単位認定試験1	
15	1	2	単位認定試験2	
合計				
15	15	30		
学習方法 実技の教科書、プリントを使用し、グループで検査、固定材料の作成、固定等を学ぶ。				
評価方法 単位認定試験、授業態度等を成績に加味する、出席(2/3以上)。 「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書 南江堂:柔道整復学・実技編 改訂第2版				
教員について【実務経験有】 (羽田先生)柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整骨院臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かし、授業を進める。 (小林先生)担当教員は鍼灸、柔整の資格、柔整の教員資格を有し、本校の卒業生である。本校卒業後、5年以上整骨院にて勤務し、開業も経験しており、経験豊富な教員である。				

2023年度 授業要項

区分	専門分野		履修学年/学部/コース	第2学年/健康部/1コース
科目名	基礎柔整実技 V		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師 専科教員		使用教室	第1実習室
教員名	天和 航平、鈴木 勇也		講義形式	実技
学習目標と講義概要	基礎的な柔道整復学を基に、柔道整復師としての資質を涵養することを目的とする。 下肢軟部組織損傷の発生機序および症状について理解させ、その固定や検査法の技術について習得させる。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	大腿部の軟部組織損傷 検査 固定 1	
2	1	2	大腿部の軟部組織損傷 検査 固定 2	
3	1	2	膝関節の軟部組織損傷 検査 固定 1	
4	1	2	膝関節の軟部組織損傷 検査 固定 2	
5	1	2	膝関節の軟部組織損傷 検査 固定 3	
6	1	2	下腿部の軟部組織損傷 検査 固定 1	
7	1	2	下腿部の軟部組織損傷 検査 固定 2	
8	1	2	足関節捻挫 検査 固定 1	
9	1	2	足関節捻挫 検査 固定 2	
10	1	2	総合演習 1	
11	1	2	総合演習 2	
12	1	2	総合演習 3	
13	1	2	総合演習 4	
14	1	2	単位認定試験	
15	1	2	解答・解説	
合計				
15	15	30		
学習方法				
1)板書及び説明 2)実技実習				
評価方法				
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
包帯固定学 :南江堂 柔道整復学 実技編 :南江堂 解剖学 :医歯薬出版				
教員について【実務経験有】				
(鈴木先生)担当教員は柔道整復の教員資格を持ち、整形外科・接骨院にて5年以上臨床経験を積んでおり、現在も附属接骨院で臨床経験を積んでいる。その経験に基づいて柔道整復学・各論を資格取得後に応用できるような授業を展開する。 (天和先生)柔道参段、整形外科での実務経験が約7年。現場で診させていただいて得た知識・技術を基にして、基礎はもちろんのこと、臨床経験も交えながら、授業を展開します。				

2023年度 授業要項

区分		専門分野	履修学年/学部/コース	第2学年/健康部/1コース
科目名		応用実技Ⅲ	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格		柔道整復師 専科教員	使用教室	第1実習室
教員名		小林 航平、森 俊明	講義形式	実技
学習目標と講義概要		種目別の外傷予防について、起こりやすい損傷とそのメカニズムとトレーニングについて適切に行えるようにする。		
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	柔道における肩関節の外傷予防	
2	1	2	水泳における体幹の外傷予防	
3	1	2	バスケットにおける膝関節の外傷予防	
4	1	2	サッカーにおける足関節の外傷予防	
5	1	2	成長期の外傷予防	
6	1	2	高齢者の外傷予防	
7	1	2	部位別トレーニング法(上肢)1	
8	1	2	部位別トレーニング法(上肢)2	
9	1	2	部位別トレーニング法(体幹)1	
10	1	2	部位別トレーニング法(体幹)2	
11	1	2	部位別トレーニング法(下肢)1	
12	1	2	部位別トレーニング法(下肢)2	
13	1	2	部位別トレーニング法(全身)	
14	1	2	単位認定試験1	
15	1	2	単位認定試験2	
合計				
15	15	30		
学習方法 1)板書及び説明 2)実技実習				
評価方法 1)単位認定試験 2)出席状況 3)授業態度(服装・身だしなみ含む) 「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書 競技者の外傷予防:医歯薬出版株式会社				
教員について【実務経験有】 (森先生)接骨院にて約6年の経験がある。 (小林先生)担当教員は鍼灸、柔整の資格、柔整の教員資格を有し、本校の卒業生である。本校卒業後、5年以上整骨院にて勤務し、開業も経験しており、経験豊富な教員である。				

2023年度 授業要項

区分			専門分野	履修学年/学部/コース	第2学年/後期部/1コース
科目名			画像評価実技 I	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格			診療放射線技師および工学博士	使用教室	第2実習室
教員名			福士 政広	講義形式	実技
学習目標と講義概要			柔道整復師としての業務に従事する際の画像による他覚的所見の有用性について理解させることを目的とする。単純X線およびMRIによる画像の特性および対象となる外傷について理解させ、その読影技術を習得させる。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	医用画像を理解するために必要な歴史と装置の概要について学習する。		
2	1	2	造影剤の種類と作用およびX線画像の概要について学習する。		
3	1	2	X線の発生原理と発生装置の概要について学習する。		
4	1	2	X線画像・上肢(上肢帯・肩関節・上腕)検査と臨床画像の見方について学習する。		
5	1	2	X線画像・上肢(肘関節・前腕)検査と臨床画像の見方について学習する。		
6	1	2	X線画像・上肢(手関節・手部・手指)検査と臨床画像の見方について学習する。		
7	1	2	X線画像・下肢(下腿・足関節)検査と臨床画像の見方について学習する。		
8	1	2	X線画像・下肢(足部・足指)検査と臨床画像の見方について学習する。		
9	1	2	X線画像・脊柱・肋骨・頭部・顔面の検査と臨床画像の見方について学習する。		
10	1	2	X線CT画像検査と臨床画像の見方について学習する。		
11	1	2	MRI画像検査と臨床画像の見方について学習する。		
12	1	2	US画像診断検査と臨床画像の見方について学習する。		
13	1	2	核医学画像検査と臨床画像の見方について学習する。		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答・解説		
合計					
15	15	30			
学習方法 1)板書及び説明 2)実技実習					
評価方法 1)単位認定試験 2)出席状況 3)授業態度(服装・身だしなみ含む) 「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書 施術の適応と医用画像の理解:南江堂					
教員について【実務経験有】 診療放射線技師免許、医療福祉工学博士の学位を有し、病院での実務経験の他、大学教授として大学での講義や、他の医療系専門学校での教育経験を活かし授業を行う。					

2023年度 授業要項

区分	専門分野		履修学年/学部/コース	第2学年/健康部/1コース
科目名	画像評価実技Ⅱ		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師 専科教員		使用教室	第2実習室
教員名	鈴木 勇也		講義形式	実技
学習目標と講義概要	柔道整復師の診察の補助として活用すること認められている超音波画像観察断置を用いて超音波画像観察を習得し臨床現場に出た際に、柔道整復術が適用されるかどうか鑑別ができるようになることを目的とする。各部位ごとの解剖学(筋骨格系、脈管神経系)を復習しつつ触察をし、学生自身が頭でイメージしているものと画像が一致することができるようにする。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	柔道整復師と超音波画像観察について 1	
2	1	2	柔道整復師と超音波画像観察について 2	
3	1	2	肩部のエコー観察 1	
4	1	2	肩部のエコー観察 2	
5	1	2	肘部のエコー観察 1	
6	1	2	肘部のエコー観察 2	
7	1	2	手部・手指部のエコー観察	
8	1	2	膝部のエコー観察 1	
9	1	2	膝部のエコー観察 2	
10	1	2	下腿部のエコー観察	
11	1	2	足部のエコー観察 1	
12	1	2	足部のエコー観察 2	
13	1	2	総復習	
14	1	2	単位認定試験	
15	1	2	解答・解説	
合計				
15	15	30		
学習方法 1)板書及び説明 2)資料配布 3)実技実習				
評価方法 1)単位認定試験 2)出席状況 3)授業態度(服装・身だしなみ含む) 「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書 施術の適応と医用画像の理解:南山堂				
教員について【実務経験有】 担当教員は柔道整復の教員資格を持ち、整形外科・接骨院にて5年以上臨床経験を積んでおり、現在も附属接骨院で臨床経験を積んでいる。その経験に基づいて柔道整復学・各論を資格取得後に応用できるような授業を展開する。				

2023年度 授業要項

区分			専門分野	履修学年/学部/コース	第2学年/狂問部/1コース
科目名			臨床実習 II	履修単位/時間	1単位/45時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	臨床実習室
教員名			木野田 浩平、小林 耕平	講義形式	実習
学習目標と講義概要			柔道整復師として、様々に臨床の現場において対応ができるようになることを目的とする。 「臨床実習 I」で学んだことが実際にできるようになるために評価法、患者対応法を実際の患者に対して行う。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	手技療法の注意事項(禁忌)		
2	1	2	患者に対する医療面接(既往歴・現病歴等)		
3	1	2	手技療法の説明と同意(効果・過程・経過)		
4	1	2	手技療法の基本法		
5	1	2	手技療法の基本法		
6	1	2	腰部のアプローチ		
7	1	2	背部・腰部アプローチ		
8	1	2	背部・腰部アプローチ		
9	0.5	1	骨盤・股関節のアプローチ		
10	1	2	骨盤・股関節のアプローチ		
11	1	2	肘関節・手関節のアプローチ		
12	1	2	肘関節・手関節のアプローチ		
13	1	2	肩関節・肘関節のアプローチ		
14	1	2	肩関節・肘関節のアプローチ		
15	1	2	膝関節・足関節のアプローチ		
16	1	2	膝関節・足関節のアプローチ		
17	1	2	頸部のアプローチ		
18	1	2	頸部のアプローチ		
19	1	2	体全体を通してのアプローチ		
20	1	2	体全体を通してのアプローチ		
21	1	2	総まとめ		
22	1	2	単位認定試験		
23	1	2	解答・説明・解説		
合計					
23	22.5	45			
学習方法					
1) 板書及び説明 2) 実技実習					
評価方法					
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
包帯固定学 : 南江堂 柔道整復学 実技編 : 南江堂					
教員について【実務経験有】					
(小林先生) 担当教員は鍼灸、柔整の資格、柔整の教員資格を有し、本校の卒業生である。本校卒業後、5年以上整骨院にて勤務し、開業も経験しており、経験豊富な教員である。					
(木野田先生) 柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を有し、整骨院での現場実務経験、他の学校での教員経験を活かし授業を行う。					

2023年度 授業要項

区分		専門分野	履修学年/学部/コース	第2学年/健康部/1コース
科目名		臨床実習Ⅲ	履修単位/時間	1単位/45時間
教員資格		柔道整復師 専科教員	使用教室	臨床実習室
教員名		木野田 浩平、小林 耕平	講義形式	実習
学習目標と講義概要		柔道整復師として、様々な臨床の現場において対応ができるようになることを目的とする。 2年次の「臨床実習Ⅰ・Ⅱ」での履修内容を踏まえて、実際の患者に対して病態評価に基づいた施術計画が立てられるようになる。		
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	柔道整復師とは(目的)	
2	1	2	柔道整復師の業務範囲	
3	1	2	柔道整復師の心得と倫理	
4	1	2	診察	
5	1	2	痛みのメカニズム	
6	1	2	患者への評価	
7	1	2	治療法(冷却・固定等)	
8	1	2	外傷予防	
9	1	2	応急手当	
10	1	2	物理療法	
11	1	2	物理療法	
12	1	2	温熱療法	
13	1	2	温熱療法	
14	1	2	運動療法	
15	1	2	運動療法	
16	1	2	その他の治療方法	
17	1	2	その他の治療方法	
18	1	2	医療事故と医療過誤・ヒヤリハット	
19	1	2	リスク管理	
20	1	2	医療事故における患者への対応	
21	1	2	総まとめ1	
22	1	2	総まとめ2	
23	0.5	1	総まとめ3	
合計				
23	22.5	45		
学習方法				
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説 3)実技実習				
評価方法				
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
柔道整復学理論編:南江堂 柔道整復学実技編:南江堂				
教員について【実務経験有】				
(小林先生)担当教員は鍼灸、柔整の資格、柔整の教員資格を有し、本校の卒業生である。本校卒業後、5年以上整骨院にて勤務し、開業も経験しており、経験豊富な教員である。				
(木野田先生)柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を有し、整骨院での現場実務経験、他の学校での教員経験を活かし授業を行う。				

2023年度 授業要項

区分		応用分野		種別学年/学部コース/クラス	第2学年/経理部1コース
科目名		職業教育Ⅱ		履修単位/時間	1単位/15時間
教員資格		柔道整復師のキャリア教育携わる者		使用教室	第2柔整普通教室
教員名		大野 政明		講義形式	講義
学習目標と講義概要		柔道整復師の責務とそれを果たすために必要な能力について理解し、職業人として自立できる素養を身に付けることを目的とする。 具体的には、柔道整復師に求められる知識や技術、そして倫理観について理解を深め、職業人として求められる能力について説明できるようにする。			
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	企業来校型現場学習会1		
2	1	2	企業来校型現場学習会2		
3	1	2	キャリア教育セミナー1		
4	1	2	キャリア教育セミナー2		
5	1	2	企業来校型現場学習会3		
6	1	2	企業来校型現場学習会4		
7	1	2	キャリア教育セミナー3		
8	1	2	企業来校型現場学習会5		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1) 板書及び説明、解説 2) 資料配付					
評価方法					
授業への主体的な参加の度合いおよび提出物の完成度で評価を行う。					
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教員について【実務経験有】					
鍼灸接骨院および鍼灸柔整専門学校における実務経験を生かし授業を展開する。					